

素敵に輝け！

「子供たちが決めることができる」学校へ

4月15日（金）の長休み、校長室の戸をノックする音がして、「失礼します。6年の〇〇です。6年の〇〇です・・・」と、6年生の男の子たちがやってきました。用件は、「金山小学校が楽しく、明るくなるための委員会を考えたので、聞いてほしい」というもので、結成しようとする委員会について一人ずつ説明をしてくれました。

これまでの委員会活動は、まず教師が「この委員会は必要だろう」というものを挙げ、それに子供たちが所属してから、内容を少し検討するというものでした。しかし、今年度は、5・6年生が「まず金山小学校にとって、どのような仕事が必要なのか」「その委員会の活動内容に工夫の余地があるのか」ということを調べ、考えて、自分たちで決めようとしているのです。



これによって決めた委員会の内容が、もしこれまでのものと似ていたとしても、それは全然構いません。そこに至るまでの過程が違うので、その委員会への思い入れは全く違うはずです。しかも、親しまれ浸透するようにと、各委員会の名称も考えてくれました。「自分たちが取り組む委員会活動だから、自分たちで考えていこう」とする主体的な動きを、とっても嬉しく感じます。「いいぞ。いいぞ！」

子供たちからは、「名称も考えたので、どれがよいと思うか、校長先生の考えを聞かせてください」との宿題をもらいました。「ん～、どれがよいかな？」悩んで迷うことになりそうです。どれも素敵なので。

成長過程において大切な「主体的な学び」は、自分で選び、判断し、考え、決定できる場があってこそ育つものだと思います。反対に、決められていることを「こなす」だけでは、それは育ちにくいかもしれません。今年度、可能な限り「子供が決められる」場面を用意し、子供たちの成長を育んでいきたいと思っています。

さあ、どのような名称のどのような委員会が結成されるのでしょうか。わくわくしながら待つことにします。